

## 日本全国から八代にくま友が集合 くまモン誕生祭 2015 in やつしろ



▲くまモンからパースデーケーキを取り分けてもらう女の子

3月14・15日に八代で初めて「くまモン誕生祭」が開催され、日本各地から「くま友」（くまモンファンの名称）約500人が本町アーケードに集合。くまモンの誕生日を祝いました。

メイン会場の本町2丁目イベント広場で行われた「くまモンのお誕生会」では、八代妙見祭の亀蛇が参加し、くまモンと夢の共演。またママゴス、ベルサークル「アルページュ」のアカペラでのパースデーソングと、ちびっこたちのダンスチーム「バイラス」によるお祝いのダンスで誕生日を祝いました。「くまモンからのあ〜ん♡」では特製のパースデーケーキが準備され、体験者の抽選会が開催されました。松高小新4年生の山下理紗さんは「くまモンからパースデーケーキを食べさせてもらえる5人に選ばれて、うれしかったです」と語りました。とても美味しかったです」と語りました。

## 鮎取り神事で泥まみれ 印鑰神社春季大祭



▲捕まえた魚に手を伸ばす子どもたち

印鑰神社春季大祭が4月7日に行われ、市指定無形民俗文化財「鮎取り神事」の会場となる鏡町の鏡ヶ池公園には、多くの見物客が集まりました。

この祭りは、5世紀の初め、印鑰神社の祭神である蘇我石川宿禰が暴徒鎮圧のためにこの地を訪れたとき、悪天候で漁ができなかったことから、地元の若者たちが鏡ヶ池に飛び込んで鮎を手づかみして献上し、もてなしたという伝承にちなんだもので、800年以上の歴史を持つ。続行事として毎年執り行われています。

肌寒い日ではありましたが、神幸行列の後、太鼓の合図とともに約50人の若者が締め込み姿で池に飛び込み、鮎や鯉、鯰を手づかみにしたり、泥を見物客に投げ上げたりしました。この泥を浴びると無病息災・厄除け厄払いのご利益があると伝えられ、泥が投げ上げられるたびに観客から大歓声が上がりました。

## 安心して生活できる地域を形成 定住自立圏形成協定を調印



▲協定書に署名をする中村市長と藤本一臣氷川町長（左）

3月23日、市役所本庁に係関係者約30人が出席し、八代市と氷川町による定住自立圏形成協定の調印が行われました。

この協定は、役割を分担して連携を図りながら、圏域に必要な都市機能と生活機能を確保し、住民が安心して暮らせる定住自立圏を形成することを目的としています。また、地方圏からの人口流出を食い止め、都市圏の住民にもそれぞれのライフステージやライフスタイルに応じた居住の選択肢を提供し、地方圏への人の流れの創出も掲げています。

中村市長は「相互に協力し、地域活性化に向け取り組んでいきたい」、藤本一臣氷川町長は「実りある成果が生まれるよう協力していきたい」と抱負を語りました。

今後、平成27年度内に定住自立圏共生ビジョンの策定に向け、各分野の見識者などとの懇談会やパブリックコメントを実施する予定です。

## 災害ごみも処理基準に合わせて分別を 八代市災害廃棄物仮置場の分別・運営訓練



▲市外からの災害ごみを持ち込まれると想定した訓練

3月21日、新港町2丁目の津田八代工場において、市と県産業廃棄物協会南部支部の共催で「八代市災害廃棄物仮置場の分別・運営訓練」が行われ、約100人が集まりました。

この訓練は、災害発生時に市が廃棄物仮置場を設置することを想定して、災害廃棄物の分別や仮置場の運営についての屋外訓練を行ったものです。最初に、県産業廃棄物協会南部支部所属の9人がダンプリンクの災害ごみを模範分別し、参加者に災害ごみにおいても処理基準に合わせて分別することの重要性を伝えました。

また、市外から災害廃棄物仮置場へごみを持ち込まれそうになったと想定したロールプレイングも行われました。不当要求行為を行う運転手に対し、受付担当職員が協力して排除するなどの迫真の取り組みに、参加者からは協力体制づくりの参考になったとの声がかれました。

## 100歳 おめでとうございます



江崎 ハツエさん  
(東陽町)  
大正4年3月31日生

現在、娘夫婦と一緒に暮らしているハツエさん。5人兄妹の次女として東陽で生まれ育ち、結婚後は米やしょうがなどを作り農業をしながら3人の子どもを育てました。  
今の楽しみは友だちとおしゃべりや温泉に行くことというハツエさん。長寿の秘訣は「農業で足腰を鍛えたことと好き嫌いなく食べること」。



早川 雪雄さん  
(揚町)  
大正4年3月14日生

現在、時代劇の漫画本を読んでいるという読書好きの雪雄さん。9人きょうだいの長男として水島町で生まれ育ちました。20歳の頃に自転車屋を始め、機械を触ることが好きのため、新しいバイクを購入しては全部分解して組み立てるなどしていたといいます。長寿の秘訣は「手作り野菜ジュースを毎日飲んだこと」。



堤 齋さん  
(日奈久塩北町)  
大正4年3月13日生

現在、長男夫婦と暮らしている齋さん。葦北郡百済来で生まれ育ち、中学生の頃に家族で日奈久に移り住みました。結婚後は4人の子どもに恵まれ、下駄の製造・販売で生計を立てました。早朝から仕事に精を出した後、午後は毎日のように釣りを楽しんだといいます。長寿の秘訣は「体をよく動かす、好き嫌いなくしっかり食べること」。

## 「五家荘トンネル」開通式



▲開通を記念しテープカット

泉町五家荘地域と五木村をつなぐ国道445号に「五家荘トンネル」が完成し、3月16日、関係者などが出席し開通式が行われました。県は安全・円滑な走行環境を確保し、観光・産業の支援を図ることを目的にバイパス整備を進めてきました。五家荘トンネル(640m)を含むバイパスは総延長881m。安全性の確保や走行距離が短縮されただけでなく、観光振興などの活性化につながると期待されています。式典では、中村市長が「五家荘と五木地域の産業・観光の発展と地域間交流が盛んになることを期待します」とあいさつしました。

## 黄色い帽子贈呈



▲八代地区交通安全協会の神園喜八郎会長(2列目右)らから黄色い帽子を受け取る子どもたち

3月26日、八代地区交通安全協会の神園喜八郎会長が市役所を訪れ、小学校新入学児童のための黄色い帽子約940個を市に贈呈しました。  
これは、新入学児童の通学時や外出時の交通事故防止と、車の運転者に対する安全運転の意識啓発を目的に同協会が毎年行っているもので、今年で16回目になります。  
この日は、新入学児童を代表して、小早川光輝君、中津陽菜子さん、村崎桂輪さん、野村絵一朗君が黄色い帽子を受け取り「ありがとうございます」とお礼を述べました。

## 交通安全グッズ贈呈



▲広崎史子教育長(当時)へクリアファイルを手渡す平本常人取締役製造部長(左)

3月19日、ヤマハ熊本プロダクツの平本常人取締役製造部長らが市教育委員会を訪れ、交通安全グッズを広崎史子教育長に手渡しました。同社は、社員の交通事故撲滅を目的に、社内に交通安全委員会を設置しています。八代地域の交通安全活動に貢献したいと、4月から新1年生となる市内の児童のために道路標識が記載されたクリアファイル1140枚を寄贈しました。  
平本部長は「新入生の交通安全意識の向上に少しでもつながれば」とあいさつ。広崎教育長は「子どもたちの交通安全教育に協力いただきありがとうございます」とお礼を述べました。

## 北新地保育園の民間移譲に伴う引継式



▲協定書を手にする中村市長と坂口弘子千秋福祉会理事長(右)

北新地保育園の民間移譲に伴い、4月1日から業務を引き継ぐことになった千秋福祉会と市の引継式が3月17日に市役所で行われました。本市の公立保育所が民営化となるのは初めてです。同保育園は平成25年12月に市が民営化の公募を行い、移管先として千秋福祉会が決定しました。4月からは「北新地海音保育園」と名称を新たに保育が始まりました。  
坂口弘子理事長は「これまで積み上げてこられた保育を継承していくとともに、心優しい子どもたちに成長することを願って、日々の保育に励みます」と語りました。



### 菜の花ウォーク in やつしろ



▲約 2000 万本の菜の花を楽しみながら歩く参加者

3月21日、市役所鏡支所や鏡町九州新幹線沿線の菜の花畑一帯で「菜の花ウォーク in やつしろ」が開催され、県内外から約2000人が参加しました。やつしろ菜の花ファーム987と九州国際スリーデーマーチ実行委員会による主催で、今回で8回目の開催となりました。  
コースは3kmと7kmの2コースで、参加者は菜の花をバックに記念写真を撮ったり、赤星公園オカリナ組の路上ライブを楽しみながら完歩しました。山梨県西桂町から参加した新田剛久さんは「西桂町と見晴らしが全く違う。景色や菜の花を楽しみながら歩きたい」と話しました。

### 防災向けプロパンガス発電機受贈式



▲市プロパンガス協同組合の皆さん。手前の赤い機械が防災向けプロパンガス発電機

3月20日、市プロパンガス協同組合の前田満洋代表理事ら6人が市役所を訪れ、防災向けプロパンガス発電機2台を市に寄贈しました。防災向けプロパンガス発電機はプロパンガスと接続して発電を行う機械で、災害時に各家庭にあるプロパンガスを活用することで、電気を必要とするライフラインの確保が可能となります。  
前田代表理事は「災害時は市役所が拠点となる。新庁舎建設時や第2避難所となる小中学校への活用も検討してほしい」と話しました。  
寄贈された2台の発電機は築添団地と高島団地に保管されます。

### 八代の未来を語る会



▲シカなどの捕獲システムの報告に聴き入る参加者

3月19日、やつしろハーモニーホールで第10回「八代の未来を語る会」が開かれ、県南の飲食店関係者や食品加工業者など約50人が集まりました。報告会では、イノシシやシカによる農作物被害額が大きいことが報告されました。また、シカやイノシシの捕獲に大型の罠を使い捕獲状況などをスマートフォンに転送するシステムなどの紹介がありました。  
小野泰輔副知事は「地域の飲食店などでもジビエ料理に積極的に取り組んで観光食を目指しましょう」とフードバレーを通じた地域づくりを呼びかけました。

### 木質バイオマスボイラーが完成



▲3月末に完成した木質バイオマスボイラー施設

市の施設である「さかもと温泉センター」『クレオン』に木質バイオマスボイラーが完成し、4月10日、指定管理者である「さかもと温泉センター」の永原辰秋代表取締役社長をはじめ関係者など約30人が出席し、点火式が行われました。本市の温泉施設では初の導入で、化石燃料の利用抑制によるコストの削減による経営の安定と森林資源の有効利用による地域活性化が期待されています。  
中村市長は「これを機にクレオンがさらに親しまれ、市内外からの利用客が増加することを願っている」とお祝いを述べました。

### 入湯100万人達成



▲左から中村市長、木原尚美さん、娘の木原来玖さん、潮濱秀明支配人

3月28日、日奈久温泉センター「ばんぺい湯」の入湯者数が100万人を達成しました。幸運な100万人目は、鹿児島市の木原尚美さん。中村市長と潮濱秀明支配人が、高田焼きの湯呑みと大浴場の年間フリーパス券、日奈久特産品をプレゼントしました。  
「ばんぺい湯」は日奈久温泉開湯600年の平成21年7月18日に開業。5年8カ月で100万人突破となりました。  
木原さんは「初めて訪れましたが、温泉のお湯がきれいで肌がツルツルして良かった」と突然のことに驚きながらもにっこりしていました。

### 八代消防署日奈久分署の新庁舎落成



▲敷地面積 2501.92㎡、延べ床面積 765.79㎡で建物は鉄骨造平屋建

八代圏域南部地区における新たな防災拠点とすることを目的に整備を進めていた八代消防署日奈久分署の新庁舎が、日奈久大坪町に完成し、3月21日に落成式が開催されました。  
式典には用地提供者や地域住民代表、消防関係者など約70人が参加し落成を祝いました。  
八代広域行政事務組合管理者の中村市長は「除染室など近代的な設備を完備し、防災・安全教育の研修の場としても活用できるよう整備しました。今後も住民の安全・安心確保のため、職員一同高い使命感を持って日々の職務に取り組んでいきます」とあいさつしました。